

〔 薬物乱用防止 レクチャーパネルセット 内容解説 〕



パネル① 「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」

本パネルセットを使ったレクチャーの導入であると同時に、最も伝えたい結論として位置付けています。

コロナ禍に見舞われた2020年、見えないウイルスの拡大に誰もがこれまで経験したことのない恐怖や不安を感じていますが、違法薬物もまた「魔性のウイルス」と喩えられるように、薬物乱用による依存性や心の制御不能など個人的な影響はもとより、家族や周囲の人、そして社会全体にまで影響を及ぼすものであることを説明しています。

■指導のポイント

薬物乱用により引き起こされる悪影響は、個人の問題に留まらず、見ず知らずの誰かまで巻き込んで取り返しのつかない事態を招いてしまうこともあります。そうなったら周囲や社会はどうなるのかを想像し、「薬物には手を出さない」という強い意思を持つことの重要性を理解できるようにして指導してください。



パネル② 「乱用される薬物」大麻

乱用される薬物にはどんなものがあるかを理解してもらうために、薬物を分類・整理し、それぞれの薬物が脳(中枢神経)に与える作用の特徴(抑制・興奮・幻覚)も表記しています。

パネル②では、昨今、乱用拡大と低年齢化の傾向が見られ、検挙者数が急増している「大麻」を取り上げ、従来の「植物として的大麻・大麻草」に加えて、中枢神経を刺激する成分を濃縮して抽出・製造された加工品や、大麻成分が含まれる食品の事例を写真により紹介しています。

■指導のポイント

身近なところに大麻が潜んでいる事実、海外旅行のお土産など知らず知らずのうちに大麻と関わってしまう危険性について指導してください。



パネル③ 「乱用される薬物」覚醒剤／危険ドラッグ

人工的に製造される化学物質系の薬物として代表的な「覚醒剤」と「危険ドラッグ」を取り上げています。

「覚醒剤」は国内でも最も乱用されており、常習性が高い薬物として知られています。「危険ドラッグ」は一時のピークを過ぎたものの、引き続きダークサイト等で取引されています。

■指導のポイント

「覚醒剤」は中毒症状を引き起こすなど精神的・身体的ダメージが大きいことを訴求、合法製品のように見せかけてネット上で販売されている「危険ドラッグ」は、合成された成分が不明なため安易に乱用すると危険性が高いことを周知してください。



パネル④ 「乱用される薬物」麻薬

その他の薬物を「麻薬」として括り、MDMA、コカイン、マジックマッシュルーム、LSD並びにヘロインなどのアヘン系麻薬を、国内ではあまり見かけない貴重な写真と共に掲載しています。

■指導のポイント

ひと口に「麻薬」と言っても数々の種類があり、形態や使用方法が多岐にわたることを伝え、それゆえに巧みな誘い文句にだまされて薬物に手を出さないよう気をつけなければならないことが大事であると指導してください。



パネル⑤ 「薬物乱用による脳・身体への影響」

薬物の乱用が、精神にどのような影響を及ぼすのか、身体のどの部分にどのような影響を及ぼすのかを、CGイラストを用いて示しています。主な症状を記載していますが、別途啓発資料の冊子と併用することで、より理解を深めることができます。

■指導のポイント

脳への影響は病理症状だけではなく「精神疾患」にも及び、その回復は容易ではないこと、身体への影響は恒常的な症状に苦しめられる「慢性中毒」と、死に直結する「急性中毒」があることを周知してください。



パネル⑥ 「薬物依存形成プロセス [I]」 パネル⑦ 「薬物依存形成プロセス [II]」

薬物の乱用をなぜ止められなくなるのか、その仕組みを解説しています。実際の依存形成プロセスは個人差もあり、単純な図や言葉で表せるものではありませんが、「依存」の基本的サイクルの理解を図るために単純化して表現しています。パネル⑥は概念としてのプロセスフロー図であり、パネル⑦はそれを薬物使用者のインボイスとして表現しているもので、本質的には同じことを訴求しています。

小学生を対象とする場合、[I]におけるワードが難しいと思われる場合は、吹き出しとイラストで構成した [II] のパネルだけの使用でも趣旨が伝わるものとしています。

■指導のポイント

薬物依存になるまでにどんな段階があるのかを周知すると共に、それぞれの段階においてどんな気持ちが生まれるのか、そしてその気持ちがどんな行動を引き起こすのか(周囲や社会的な悪影響)を解説し、「自分の意思ではやめられなくなる」という依存の特徴が理解できるように指導してください。



パネル⑧ 「薬物犯罪の傾向」

特に最近の傾向として顕著な大麻栽培事犯に着目し、取締機関が差し押さえた実際の現場や押収品等のリアルな写真で構成しました。そのビジュアルインパクトによって、対象者にこれまでの学習をより印象づけ、パネル①の結論に帰結する役割を果たします。

■指導のポイント

今現実には何が起きているのか、このままだと自分たちの未来や社会全体はどうなるのかを対象者とともに考え議論しながら、「生涯、薬物には絶対に手を出さない」ことを誓い合い、共有するようにしてください。